

令和4年度 北小学校英語科特例校の実施状況について

大泉町立北小学校

1 英語科特例校の内容

小学校1・2年生において、「外国語活動」を実施する。

近年、国際化・グローバル化が進んでおり、今後その流れはますます大きくなることが予想される。令和2年度からの新学習指導要領では、3・4年生で「外国語活動」、5・6年生で「外国語科」が新設され、外国語教育の一層の充実を図ることとなっている。そこで、大泉町内の全ての小学校において、特別の教育課程を実施し、早期から英語の学習を始めて英語教育の充実を目指していく。

2 児童アンケートの結果

<質問項目>

①「外国語活動」の時間は、楽しいですか？	93%
②「外国語活動」の時間は、先生や友達とすすんで英語で話していますか？	81%
③英語であいさつをしたり、英語で言ったり、答えたりすることができますか？	82%

(数値は肯定的な回答の合計割合)

<自由記述>

- ・歌やゲーム、クイズ、ダンスなどの活動が楽しい。
- ・英語が言えるようになるとうれしい。
- ・アルファベットや季節や月の歌などが楽しい。
- ・英語は難しいけれど、授業は楽しいので、もっとおぼえたい。
- ・外国の人と英語で話せるようになりたい。

3 保護者アンケートの結果

<質問項目>

①小学校1年生から、英語の授業を実施することは、英語への関心を高めることに役立っていると思いますか？	97%
②お子さんは、英語の授業を楽しみにしていると思いますか？	93%
③お子さんは、英語であいさつをしたり、英語で言ったり、答えたりすることができますか？	69%

(数値は肯定的な回答の合計割合)

<自由記述>

- ・授業の様子を楽しそうに話してくれたり、授業で習った歌を口ずさんでくれる。
- ・歌や動きを取り入れた授業で、小さい頃から英語に抵抗なく触れることができている。
- ・学校で低学年のうちから英語に触れることができることは、ありがたい。
- ・ネイティブのALTの先生と小さい頃から触れ合うことは、多文化共生につながる。
- ・1年生からは早いかなと思ったが、しっかりと耳から聞き取り覚えてくる姿が見られる。

4 教職員アンケートの結果

<質問項目>

①小学校1年生から、英語の授業を実施することは、英語への関心を高めることに役立っていると思いますか？	100%
②児童は、英語の授業を楽しみにしていると思いますか？	100%
③児童は、英語であいさつをしたり、英語で簡単な質問に答えたりすることができますか？	100%

(数値は肯定的な回答の合計割合)

<自由記述>

- ・ J T E の先生が配置されていると大変ありがたい。
- ・ 低学年は楽しみながら英語に触れる時間が多くてよいと思う。
- ・ 大泉町の地域性もあって、低学年からの英語は多文化共生教育に有効だと思う。

5 成果と課題

<成果>

- ・ 歌、ゲーム、クイズ、ダンスなどの活動を取り入れることで、児童の興味、関心を高めることができている。
- ・ 低学年では、「話す・聞く」のやり取りを中心にする中で、英語を身に付けると同時に、英語を使ってコミュニケーションの仕方を身に付けることができている。
- ・ 低学年からネイティブの ALT の先生や外国語に触れることは多文化共生につながっている。

<課題>

- ・ J T E、A L T との授業の打ち合わせの時間を十分に確保する必要がある。
- ・ 低学年は教科書や宿題、テストがないので、どのような授業を行っているのか、保護者に伝わりにくいと感じる。学校の便り、授業公開、ホームページ等でさらに外国語活動の様子を伝えていく必要がある。

6 学校関係者（学校評議員）の評価結果

- ・ 子ども達が楽しそうに授業を受けている。興味がわくような導入のやり方で、とてもいい。
- ・ 日常的には取り入れられていないのもったいない。生きた英語の習得に期待したい。あいさつなどに取り入れるのも良いかと思う
- ・ 英語の先生の授業で、リスニングや基礎学を熱心に学ぶ児童の真剣な姿勢、熱心に指導している教師の姿を見て頼もしく思った。